

GEKKAN ORIMOTO

## 月刊 織本

7月号

2010年7月1日 Vol.191

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘 1-261

Tel 042-491-2121 URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木由利



緋扇水仙（ヒオウギズイセン）

## 日本は本当に 恵まれた医療環境の国かしら？

理事長・院長 高木 由利



病院の中庭に人知れず咲く、くちなしの木があります。街のお花屋さんより遅く咲き、少しずつ、そして長く咲き続けるこのくちなしは私の楽しみの一つ。今は、まだつぼみは開かず、白い花とあの香りを私は今か今かと待ち望んでいるのです。

\* \* \*

政府が民主党に変わり、1人位はまともな政治家が出てくるのかと期待していましたが、やはり民主党も腐敗しているようです。彼らがもともと腐敗した人達とは思いたくありませんが、政治家になると汚れるのは一体どういうことなのでしょう。私には到底理解できない現象です。私達医師の世界と比べてみるとあまりにも差があり過ぎるからです。我々の世界でよく見られる現象は医科大生の頃、遊んでばかりいたどうしようもない人間が医師免許をとって働き始めた瞬間、よく勉強し真面目で人間味ある医師になることが多々見られるのです。人間の体をみながら“命”を患者さんと共有する私達医師の仕事は、人生の大半をつぎ込んで学び続ける覚悟がなければできません。しかし日本の政治家を見ていると賄賂を受け取ってテレビや新聞で平気な顔をしている人達なのですから、日本

の国のために自分の人生の大半をつぎ込むことなど、思う訳がないのかもしれませんが、その愚かな人間が日本の医療費を決めていると思うと、私は背筋が寒くなる思いです。

ある大学病院では“慢性疾患（例えば糖尿病・腎不全・高血圧など）の患者さんは手がかかるだけではなく、検査をしたりすると病院の持ち出しになるため、赤字になる”という理由で慢性疾患の患者さんを他院に紹介せよという命令が出ました。一見、この大学病院が非人道的だという印象を受けますが、日本の医療態勢がじっくり慢性疾患をみることができないように仕組まれているのですから、情けない話です。日本人の疾病分類を見てみると慢性疾患患者は癌患者の何十倍も多いのに、その方々にとって最も大切な生活指導や食事指導が正当に評価されないのは、どう考えても納得がいきません。“CKD キャンペーン”とか“糖尿病対策”などと騒いでいても何の意味もないのです。慢性疾患に対する基本的な指導にきちんとした医療費が健康保険から支払われなければ、病院やクリニックはやりたくても自腹を切らされる現況では、とても指導には手が回らないのです。

私達日本人が今考えなければならないことは、まず自分の体がどういう状態であるかを人間ドックなどを利用し調べることです。そして異常値が出た場合は、その結果を真摯な気持ちで受け止め、どういう生活をすべきかを真剣に考える必要があると思います。“誰

かが・・・、医者が・・・、国が・・・、何とかしてくれるのでは・・・”こんな刹那的な生き方では、この日本では生きていけないような気がしてきました。

近々の選挙での1票もしっかり考えて投票しましょうよ。

## 院内学会を終えて

医事課 木下 智美



6月22日（火）、第47回織本病院院内学会が開催されました。

今回私は『オンラインによるレセプト請求について』という演題で発表させていただきました。今年の4月よりレセプトオンライン請求が義務化され、当院でも2月より請求を開始しました。レセプトオンライン請求とは、レセプト（診療報酬明細書）を電子的なデータ（電子レセプト）にして回線で送ることです。オンライン請求を行うには、

### ① レセコン

（電子レセプトを作成できる医事会計システム）

### ② レセプトの電子方法をオンライン請求に可能な情報に変換するシステム

### ③ ネットワーク回線の確保

### ④ 送信用のパソコン

が必要です。今までは紙に出力し、手作業で保険番号順に並べ替え、電卓にて集計した後、それぞれ国保連合会・社会保険支払基金へと郵送していましたが、オンライン請求を始めてから、紙の使用も最小限になり集計や不備のあるデータの確認が機械でチェックできる為、提出期限にも余裕ができレセプト点検により一

層力を入れています。

今回、この発表をさせていただく事にあたり、医事課でのレセプト請求についての内容を理解していただける契機になったと思います。

今年の5月中旬より、オーダリングが始まりました。益々当院でもコンピューター化される中、診療行為の明瞭化・請求漏れのない様に今後も努めていく事が必要と考えます。また、効率化されたことにより患者様へのより良い対応を心がけていきたいと思っています。



## 第47回 織本病院院内学会 演題

2010年6月22日（火）

### 【一般演題】

- ◎ 接遇委員会より ～1年間の委員会活動を通して～
- ◎ 安全対策委員会より
- ◎ ごみ分別作戦『病院におけるゴミの分別廃棄～ゴミから見える課題～』
- ◎ 高齢者を支えるチーム医療～地域連携により外来透析が可能になった例～

薬局	宮部 清一
看護部長	佐藤 永子
一般病棟	増澤 玲子
透析センター	松田 ひなこ

- ◎ 糖尿病患者に対し経腸栄養剤の検討を行い血糖上昇が有意に抑制出来た2例
- ◎ 織本病院電算化の歩み
- ◎ 透析液の洗浄化について
- ◎ 簡易懸濁法の導入への取り組み
- ◎ 診療報酬点数改定について
- ◎ オンラインによるレセプト請求について
- ◎ 人間ドック

栄養科	伊藤 夢見
施設用度課	鈴木 晃司
透析センター	本間 穰史
薬局	外山 加奈
医事課	高杉 美津穂
医事課	木下 智美
健診チーム	織本 潤

## 【特別講演】

- ◎ 個人情報保護法についての特別研修
- ◎ 人工血液透析者に対するALTA療法の経験

事務部長	箕輪 比呂志
院長	高木 由利

## 【教育講演】

- ◎ 私たちの仕事～医療従事者として～

医局	岡田 仁史
----	-------

THE vol.50

病理診断

## 『とりなしの祈り』

聖マリアンナ医科大学 診断病理学教室教授  
高木正之 先生



病院に入院した人にお見舞いの手紙を送るとき、「早く良くなりますようにお祈りします。」と書きます。自分の為ではなく、人の為にするお祈りを「とりなしの祈り」と言います。私たちは、自分が辛いときに神様や仏様に「助けてください」とお祈りしますが、本当に苦しいときは祈ることもできなくなります。絶望的になると祈りの言葉が出てこなくなるからです。

奥田知志牧師は九州でホームレス支援のNPO法人を立ち上げました。しかし施設に収容できる人数が限られているので、路上で亡くなっていく人があまりに多すぎて、彼が祈れないほど無力感を感じていたときに、ひとりの婦人の祈りに励まされたという記事を紹介します。

ある日曜日の礼拝で、教会で婦人が献金のお祈りに立ちました。高齢で物覚えが極端に難しくなっていた彼女は、「神様、この献金を御用のためにお使いください。神様、実は私は最近どうも物忘れがしてみなさんにご迷惑になっていないか、とても心配です。このままだと、わたしはいつか神様のことも忘れてしまうのではないかと、とても心配になります。」この深刻な祈りに礼拝堂が静まりかえりました。しかし、彼女は最後に絞り出すように付け加えました。「しかし、神様、もし私があなたのことを忘れても、あなたは決して私のことを忘れずに祈ってくれています。だから、私は生きていけます。」絶望を吹き飛ばす希望の光が「外から」礼拝堂を包み込みました。彼女の祈りが路上で絶句する私を今も支えています。

自分が誰かに「とりなしの祈り」をしてもらっていると知るとき、大きな慰めと励ましを受けます。私も、祈ることさえできないほどに悲しんでいる方のために、「とりなしの祈り」をしていきたいと思います。

## アコースティックギターデュオ

# Healing Art コンサート

グループ名 **Hearing Art** (ヒーリングアート) の意味

・・・人の心を和ませ治癒に助力するような絵画や音楽

『2本のギターで織り成すギターバラード Healing Guitar (ヒーリングギター)』をコンセプトとしたギターデュオ。青空、星空、雪景色などの自然の風景... 人の優しさや切なさ... そんな情景や心情の見えるハートフルなギターミュージックをぜひ聴きにいらしてください。



Guitarist  
矢崎 数馬  
Kazuma Yazaki

Guitarist  
倉前 太郎  
Taro Kuramae

2010年7月9日(金)

2F フロアコンサート  
15:00 start

4F ホールコンサート  
18:00 start

入場無料

## 第112回 腎疾患ゼミナール

### 『腎不全を理解しよう!! ⑥』

～検査データに変化が出たとき その6～』

看護部からのワンポイントアドバイス

腎臓内科：高木由利

『カリウムコントロール』 看護師：五十嵐 久美子

どなたでもご参加頂けます。皆様ぜひお越しください。

日時：2010年7月15日(木)

午後1:00～

会場：オリモトホール(当院4F)

参加費：無料